

令和3年度 成長力強化に貢献する質の高い教育

1. 授業科目名

公衆衛生看護活動展開論Ⅱ

2. 連携している地元産業界等の組織名称

倉吉市

3. 当該授業等を実施する学部・学科

鳥取看護大学 看護学部看護学科

4. 当該授業等を開講する目的および内容

倉吉市と協定（倉吉市と学校法人藤田学院との連携に関する包括協定書）を締結し、倉吉市が抱える健康課題を主な素材として、グループワークによるPBL学習（授業科目：公衆衛生看護活動展開論Ⅱ）を行う。倉吉市のホームページ等から情報を収集し、地区視診で得たデータを整理した上で、一次アセスメントを統合して二次アセスメントを行い健康課題を抽出する。抽出した健康課題を解決するための計画立案や評価指標を検討し地域診断過程を発表しディスカッションする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	3単位	選択
担当教員			
小石真子(mkoishi@tcn.ac.jp)、稲田千明、細田武伸、加藤紗也香			
授業形態	時間数		科目区分
講義	45時間		専門分野【保健師教育分野】
添付ファイル			

特記事項	<p>資格選択区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 看護師資格必修 <input checked="" type="checkbox"/> 保健師資格必修 <input checked="" type="checkbox"/> 養護教諭二種免許必修 <input type="checkbox"/> 看護師資格選択必修 <input type="checkbox"/> 保健師資格選択必修 <input type="checkbox"/> 養護教諭二種免許選択必修 <p>ディプロマポリシーとの関連性</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 <input type="checkbox"/> 高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 <input type="checkbox"/> 専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 <input type="checkbox"/> チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 <input checked="" type="checkbox"/> 病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 <p>実務経験のある教員による授業科目の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 担当している <input checked="" type="checkbox"/> 担当していない <p>実務経験を授業科目にどのように活かしているか</p> <p>科目等履修生ほか受入（受入可能人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 受入可 <input checked="" type="checkbox"/> 受入否 <p>受入可能人数</p>
------	---

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・アズ・パートナーモデルを理解した上で、既存の資料やインターネットを活用した情報から地域診断過程をグループワークで学ぶ。 ・グループ・集団への支援方法としての健康教育について実際に演習を行い学ぶ。
-------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域診断の意義と展開過程をわかる。 ・地域診断に必要な情報を収集しアセスメントできる。 ・地域の健康課題の抽出方法を知り、健康課題の優先順位の決定方法がわかる。 ・地域の健康課題に対して、介入（実践）計画を立案できる。 ・集団を対象とした健康教育を実施するために必要な理論と技術を習得する。
------	--

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
1	・地域診断に関する理論・診断過程についての概説（復習） ・「地域診断」演習に関するオリエンテーション	講義	公衆衛生看護学概論で既習した地域診断に関する内容を復習しておく	1時間	小石
2	人口統計から別紙に示す①～⑤について一次アセスメント（要約・比較・推論）する	グループワーク	前回の講義内容を復習してくる ①～⑤について経年的なデータを抽出する	1時間	小石・稲田・細田・加藤
3	人口統計から下記に示す①～⑤について一次アセスメント（要約・比較・推論）する。 資料提出	グループワーク	①～⑤について読み取り、アセスメントを行う	1時間	小石・稲田・細田・加藤
4	①～⑤の一次アセスメントに対する追加・修正を行う	グループワーク	県や管内の市町村と比較する	1時間	小石・稲田・細田・加藤
5	人口統計から別紙に示す⑥～⑩について一次アセスメント（要約・比較・推論）する	グループワーク	人口統計の⑥～⑩の情報を確認しアセスメント内容について予習しておく	1時間	小石・稲田・細田・加藤
6	人口統計から別紙に示す⑥～⑩について一次アセスメント（要約・比較・推論）する。 発表資料を作成する	グループワーク	人口統計の⑥～⑩の一次アセスメント内容を確認する	1時間	小石・稲田・細田・加藤

7	⑥～⑩の一次アセスメントを 発表する	プレゼン テーショ ン	他のグループの発表内容と比較し アセスメント力を高める	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
8	8つのサブシステムに関する 情報収集とアセスメント	グループ ワーク	担当市町村のホームページ等から 情報収集し、その資料を持参する	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
9	健診結果、介護保険統計から の分析	グループ ワーク	健診結果、介護保険統計等の一次 アセスメントを行う	1時間	細田・小石・細 田・加藤
10	データのマッピング化によ り、資料作成	グループ ワーク	各種データの2次分析を考える	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
11	関連図を作成し、健康課題を 抽出	グループ ワーク	2次アセスメントを考える	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
12	人間の基本的欲求に合わせて 、健康課題を整理する	グループ ワーク	マスローの要求階層理論を復習し ておく	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
13	保健活動計画の立案	グループ ワーク	上記の内容について事前に考えて くる 発表準備	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
14	担当地区の地域診断を発表 し、ディスカッションする	ディス カッショ ン	各グループの発表との比較におい て学びを深める	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
15	担当地区の地域診断を発表 し、ディスカッションする	ディス カッショ ン	各グループの発表との比較におい て学びを深めレポートを作成する	1時間	小石・稲田・細 田・加藤
16	・健康教育の位置付け（定義 と目的・目標、対象と場）と 展開過程 ・健康教育の技術（学習方 法、教育技術）	講義	公衆衛生看護活動展開論Ⅰで既に 学習した健康教育に関する内容を 復習しておく	1時間	稲田
17	地域診断から抽出した健康課 題から支援方法としての健康 教育を考える 「健康教育」演習に関するオ リエンテーション	グループ ワーク	公衆衛生看護学概論ですでに学習 した「プレシード・プロシードモ デル」を復習しておく	1時間	稲田・加藤・小 石
18	健康教育について、企画書 と指導案の作成	グループ ワーク	テーマに沿った効果的な方法を考 え企画書および指導案の準備をす る	1時間	稲田・加藤・小 石
19	健康教育について、企画書 と指導案の作成	グループ ワーク	テーマに沿った効果的な方法を考 え企画書および指導案の準備をす る	1時間	稲田・加藤・小 石
20	健康教育について、効果的な 方法を工夫し教材を作成す る。発表資料の提出	グループ ワーク	テーマに沿った効果的な方法を考 え教材を作成し発表に備える	1時間	稲田・加藤・小 石
21	健康教育について、効果的な 方法を工夫し教材を作成する	グループ ワーク	テーマに沿った効果的な方法を考 え教材を作成し発表に備える	1時間	稲田・加藤・小 石
22	健康教育について、発表・ ディスカッション・評価	ディス カッショ ン	各グループとの比較において学び を深める	1時間	稲田・加藤・小 石・細田
23	健康教育について、発表・ ディスカッション・評価	ディス カッショ ン	各グループとの比較において学び を深めレポートを作成する	1時間	稲田・加藤・小 石・細田
先行履修科目	地域基礎看護学、公衆衛生学、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動展開論Ⅰを履修すること。				
テキスト	1. 公衆衛生看護学：荒賀直子、後閑陽子編集、インターメディカル 2. 標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論：標美奈子他、医学書院				
参考文献	国民衛生の動向2019/2020, 厚生労働統計協会 コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版：エリザベスT. アンダーソン、ジュディス・マ クファーレイ、金川克子、早川和生監訳、医学書院 最新保健学講座＜別巻1＞健康教育論：宮坂忠夫他、メヂカルフレンド社				
評価方法	グループワーク参加度20%、成果物60%、レポート20%				
課題（試験やレ ポート等）に対 するフィードバ ックの方法	グループワークの成果物のコメントは、提出の都度に授業で述べる。 個人レポートは、コメントを付して返却する。				
備考	テキストは2年次に購入したテキスト1を主に使用するが、副教材としてテキスト2を使用する。 授業は、1～23の順ではなく変更の可能性はある。				